

2019年度（対象年度：2018）自己点検・評価シート

基準4	教育課程・学習成果	1/2
-----	-----------	-----

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目	自己評価	
	点検項目（評価の視点）	現状	改善
401	授与する学位ごとに、学位授与の方針を定め、公表しているか。	B	
	①課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与の方針の適切な設定及び公表		
402	授与する学位ごとに、教育課程編成・実施の方針を定め、公表しているか。	B	
	①下記内容を備えた教育課程編成・実施の方針の設定及び公表 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等 ②教育課程編成・実施の方針と学位授与の方針との適切な連関性		
403	教育課程編成・実施の方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	B	B
	①各学部・研究科において適切に教育課程を編成するための措置 ・教育課程編成 ・実施の方針と教育課程の整合性 ・教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮 ・単位制度の趣旨に沿った単位の設定 ・個々の授業科目の内容及び方法 ・授業科目の位置づけ(必修、選択等) ・各学位課程にふさわしい教育内容の設定 ＜学士課程＞初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等 ＜修士課程、博士課程＞コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等 ②学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育の適切な実施		
404	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	B	
	①各学部・研究科において授業内外の学生の学習を活性化し効果的に教育を行うための措置 ・各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るための措置 (1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定等) ・シラバスの内容(講義概要、到達目標、講義方法、授業時間外における予・復習の指示、成績評価の方法、講義計画等の明示)及び実施(授業内容とシラバスとの整合性の確保等) ・学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法 ＜学士課程＞授業形態に配慮した1授業あたりの学生数、適切な履修指導の実施 ＜修士課程、博士課程＞研究指導計画(研究指導の内容及び方法、年間スケジュール)の明示とそれに基づく研究指導の実施		

2 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。	
401①402①②学位授与の方針（DP）、教育課程の編成・実施方針（CP）については、毎年、学部・研究科等において、年度初めの教授会等で確認がなされ、適切性が確認されている。[401a] また、「3つの方針一体的見直し作業部会」において全学的な見直し作業を進め、2019年度入学生より新たなDPとCPを適用することとなった。（2018年度第6回全学教学政策会議<2019.1.24>報告）[101d]。また、DP、CPについては、HPにて広く公表されており、履修要項にも明示している。	
403①②CPと教育課程との整合性については、毎年、教学部から各学部・研究科宛に学則の変更に係る確認依頼を行っており、それにあわせて各学部・研究科では確認がなされ、必要に応じて変更がなされている。[403a] 単位の設定については、大学設置基準に基づき、各学部・研究科において科目修得のために必要な授業時間数を履修要項に明示し実施しており、単位制度の趣旨に沿ったものとなっている。[403b]	
404①単位制度の趣旨を考慮した単位の実質化を図るための措置として、学生が受講登録できる単位数に対して上限設定[404c]を行っている。授業時間外における学生の学修を促進するために、シラバスにおいて「授業時間外における予・復習等の指示」欄[404b]を設けている。また、シラバスの記載内容として、「講義概要」、「到達目標」、「講義方法」、「成績評価の方法」があり[404b]、アウトカムベースのシラバスとなっている。受講生が多くなる傾向にある教養教育科目においては、次年度の受講登録学生数を予測してクラス数を決定[404c]し、受講登録学生数が確定した段階で、クラス分割が必要な授業に関しては、クラス数を増やすなどの措置を講じている。	
研究科の研究指導計画については、すべての研究科において研究指導計画を作成し、研究指導の方法及び内容や年間スケジュールなどを、履修要項や演習のシラバス上において、学生に対して明示している[404d]。	
長所・特色《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの	
項目 No.	
項目 No.	
課題事項《箇条書き》 *伸長すべき点、改善すべき点	
401,402	学部・研究科の教育理念・目的と3つの方針の連関性、および整合性の検証。
項目 No.	

3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

対象年度における取り組み *成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
「3つの方針一体的見直し作業部会」において全学的な見直し作業を進め（計5回開催）、2019年度入学生より新たなDPとCPを適用することとなった。（2018年度第6回全学教学政策会議<2019.1.24>報告）[101d]。	

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
401,402	「3つの方針検証委員会」において、全学的な共通の枠組みのもとに継続的に見直し作業を行う。

4 根拠資料

項目 No.	根拠 記号	根拠資料の名称
401	a	各学部・大学院における「教育理念・目的」・「学位授与の方針」・「教育課程編成・実施の方針」の変更にかかる報告について（依頼）
403	a	学則変更（案）の報告について（依頼）
403	b	2019年度各学部履修要項（根拠資料102b参照）
403	b	2019年度各研究科履修要項（電子データなし）
404	a	履修登録制限単位数
404	b	シラバス作成の手引き
404	c	2018年度第11回教養教育会議 議事録(抜粋)
404	d	研究科研究指導計画書

II. 評価結果

総評
<p>学位授与の方針（DP）、教育課程編成・実施の方針（CP）は、履修要項に明示し、かつ WEB サイトにも公表している。また「3つの方針一体的見直し作業部会」で全学的な見直し作業を進め、2019年度入学生から新たな DP と CP を定め公表している。各学部の DP と CP とは整合性がとれているものと評価できる。</p> <p>各学部・研究科は、毎年度、学則の変更を検討する時に、CP と教育課程との整合性の確認を行い、必要に応じて教育課程（授業科目）を変更している。</p> <p>新たな DP 及び CP は、高大接続の観点から「学力の3要素」を踏まえた本学としての新たな4つの観点に再構成している。また DP 及び CP には、キャリア教育にかかる文言を新たに追加している。高大接続を意識し、かつ社会的及び職業的自立を図るための能力を育成する（または身につける）教育を実施することを方針に定めると評価できる【「回答シート」及び「根拠資料403c」より】。</p> <p>大学院においては、全学教学政策会議と大学院教学会議が連携して、研究科連携プログラム・研究所提供プログラムの開発や社会人向けコース・プログラム等の開発等、教学的な側面からの大学院改革について検討を行い「大学院改革に向けた検討について（報告）」＜2019年3月22日＞を取りまとめた。今後、大学院教学会議を中心に、本報告に基づき、大学院改革における具体的な検討を進めていくことが期待される【「回答シート」及び「根拠資料403d」より】。</p> <p>授業時間外における学生の学修を促進するため、シラバスに「授業時間外における予・復習等の指示」欄を必須項目として設けていることは、効果的な教育を行うための措置として評価できる。</p> <p>受講生が多くなる傾向にある教養教育科目では、次年度の受講登録学生数を予測してクラス数を決定し、受講登録学生数が確定した段階で、クラス分割を必要とする場合にはクラス数を増やすなどの措置を講じている。教養教育科目は、全学部の学生が受講することから、各科目の受講生数の適正化を目指し、より抜本的な対策の検討・実施が望まれる。</p> <p>すべての研究科は、研究指導計画を作成し、研究指導の方法及び内容や年間スケジュールなどを、履修要項や演習のシラバスに明示している。</p> <p>項目 403① ・各学位課程にふさわしい教育内容の設定。＜学士課程＞初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等、＜修士課程、博士課程＞コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等。これらについて、自己点検・評価の記載がない。適切な自己点検・評価が望まれる。</p> <p>【改善報告書より】</p> <p>DP・CPの見直しに伴い、カリキュラムチェックリストや科目ナンバリングのエビデンスとなる各教学責任主体の開講科目と CP との関係を確認するリストを作成した。このリストをカリキュラムチェックリストとして活用できる形になっている。また DP・CP の見直しが完了したことから、「3つの方針検証委員会」において、科目ナンバリングについて、その導入の適切性も含め検討する、との記載がある。これらことを踏まえ、カリキュラムチェックリストや科目ナンバリングの導入など、個々の授業科目の順次性・体系性等を確認する体制を構築する必要がある。</p>

長所・特色《箇条書き》

「3つの方針一体的見直し作業部会」で全学的な見直し作業を進め、2019年度入学生から新たなDPとCPを定め公表している。各学部でのDPとCPとは整合性がとれているものと評価できる。

新たなDP及びCPは、高大接続の観点から「学力の3要素」を踏まえた本学としての新たな4つの観点に再構成している。またDP及びCPには、キャリア教育にかかる文言を新たに追加している。高大接続を意識し、かつ社会的及び職業的自立を図るための能力を育成する（またに身につける）教育を実施することを方針に定めていると評価できる。

授業時間外における学生の学修を促進するため、シラバスに「授業時間外における予・復習等の指示」欄を必須項目として設けていることは、効果的な教育を行うための措置として評価できる。

課題事項《箇条書き》 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載

例えば、カリキュラムチェックリストや科目ナンバリングの導入など、個々の授業科目の順次性・体系性等を確認する体制を構築する必要がある。【努力課題】

今後、大学院教学会議を中心に、「大学院改革に向けた検討について（報告）」〈2019年3月22日〉に基づき、大学院改革における具体的な検討を進めていくことが期待される。【留意点】

教養教育科目は、全学部の学生が受講することから、各科目の受講生数の適正化を目指し、より抜本的な対策の検討・実施が望まれる。【留意点】

2019年度（対象年度：2018）自己点検・評価シート

基準4 教育課程・学習成果

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目	自己評価	
	点検項目（評価の視点）	現状	改善
404	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	B	B
	①教育改革・教育改善の推進 ・龍谷IP、龍谷GP		

2 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。	
<p>教学課題の解決や国の高等教育政策・補助事業の動向等を踏まえた全学的な取り組みや複数学部による横断的な取組、各学部における教育改革に向けた意欲的な取組で全学的な効果が期待できる取組に対して、スタートアップ経費として一定の期間重点的に財政支援を行うために、龍谷GP事業を実施している[404a]。2018(平成30)年度第1回GP推進委員会(2018年7月3日開催)において、2016年度龍谷GP採択事業に対する事業評価案について審議し確定した後、部局長会で報告することを決定した[404b,c]。</p> <p>龍谷GP事業の後継事業として、大学改革及び教育改革に資する取組を支援することを目的として、龍谷IP(Inventive Program)事業を設けている[404d]。また、龍谷IPは、事業経費を一定期間支援し、支援期間中に優れた教育効果をあげた取組について事業継続を支援することとしている。2018(平成30)年度第7回採択型教学充実推進委員会(2018年9月11日開催)において、龍谷IP事業に係る採択候補の選定を行った[404d][404e]。</p> <p>また、2018年度第2回採択型教学充実推進委員会(2018年5月24日開催)において、2016年度龍谷IP採択取組の事業評価案について審議し、確定した後、部局長会で報告することを決定した。[404f]</p>	
長所・特色《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの	
404	第14回龍谷大学FDフォーラム(2019年3月25日開催)で、龍谷IP・龍谷GP事業に選定されたものから、学修者本位の教育への転換をテーマにルーブリックやアクティブラーニングの取組で得た成果や課題の事例報告会を行った。[404g]
課題事項《箇条書き》 *伸長すべき点、改善すべき点	
404	特になし。

3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

対象年度における取り組み *成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
2019年度龍谷IP事業として、計4件の取組を採択した [404e]。

＜今年度の伸長・改善計画＞

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
404	2016年度龍谷 GP 及び龍谷 IP の事後評価並びに2017年度龍谷 IP の予備評価を実施する。
404	2020年度龍谷 IP の募集・採択候補案の選定を行う。

4 根拠資料

項目 No.	根拠記号	根拠資料の名称
404	a	龍谷 GP 実施要項 (2015.03.25 改正)
404	b	2018年度第2回 GP 推進委員会議事録
404	c	2016年度龍谷 GP 採択事業に係る事業評価結果一覧
404	d	龍谷 IP 実施要項
404	e	2018年度第2回採択型教学充実推進委員会議事録
404	f	2018年度第2回採択型教学充実推進委員会議事録
404	g	第14回 龍谷大学FD フォーラム2018 広報用チラシ

II. 評価結果

総評
<p>大学改革及び教育改革に資する取組を支援することを目的とした「龍谷 IP (Inventive Program) 事業」を実施していることは、学生の学習を活性化し、効果的な教育を行うための支援策と評価できる。2018年度、龍谷 IP 事業（2019年度事業）は4件採択された。</p> <p>龍谷 IP・龍谷 GP 事業に選定されたものから、学修者本位の教育への転換をテーマにルーブリックやアクティブラーニングの取組で得た成果や課題について、FD フォーラムを開催し事例報告会を行った。採択取組の成果を公表する取り組みと評価できる。</p> <p>龍谷 IP 事業は、2018年度の配分額 60,000 千円に対し決算額 31,832 千円、2019年度は配分額 85,000 千円に対し予算額は 32,945 千円となっている。改善・発展させるためにも、採択事業が基準に基づく配分額を大きく下回っている（2019年度は50%にも満たない）ことを踏まえ、龍谷 IP 事業の妥当性や今後の展望について、自己点検・評価することが望まれる。</p> <p>龍谷 IP に採択された事業が、今後、優れた教育効果をあげた取組として評価され、恒常事業として支援されることが期待される。</p>
長所・特色《箇条書き》
<p>龍谷 IP・龍谷 GP 事業に選定されたものから、学修者本位の教育への転換をテーマにルーブリックやアクティブラーニングの取組で得た成果や課題について、FD フォーラムを開催し事例報告会を行った。採択取組の成果を公表する取り組みと評価できる。</p>
課題事項《箇条書き》 *各項目に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載
<p>龍谷 IP 事業は、2018年度の配分額 60,000 千円に対し決算額 31,832 千円、2019年度は配分額 85,000 千円に対し予算額は 32,945 千円となっている。改善・発展させるためにも、採択事業が基準に基づく配分額を大きく下回っている（2019年度は50%にも満たない）ことを踏まえ、龍谷 IP 事業の妥当性や今後の展望について、自己点検・評価することが望まれる。【留意点】</p>